

第45回全国公民館研究集会 第63回関東甲信越静公民館研究大会長野大会日程及び次第

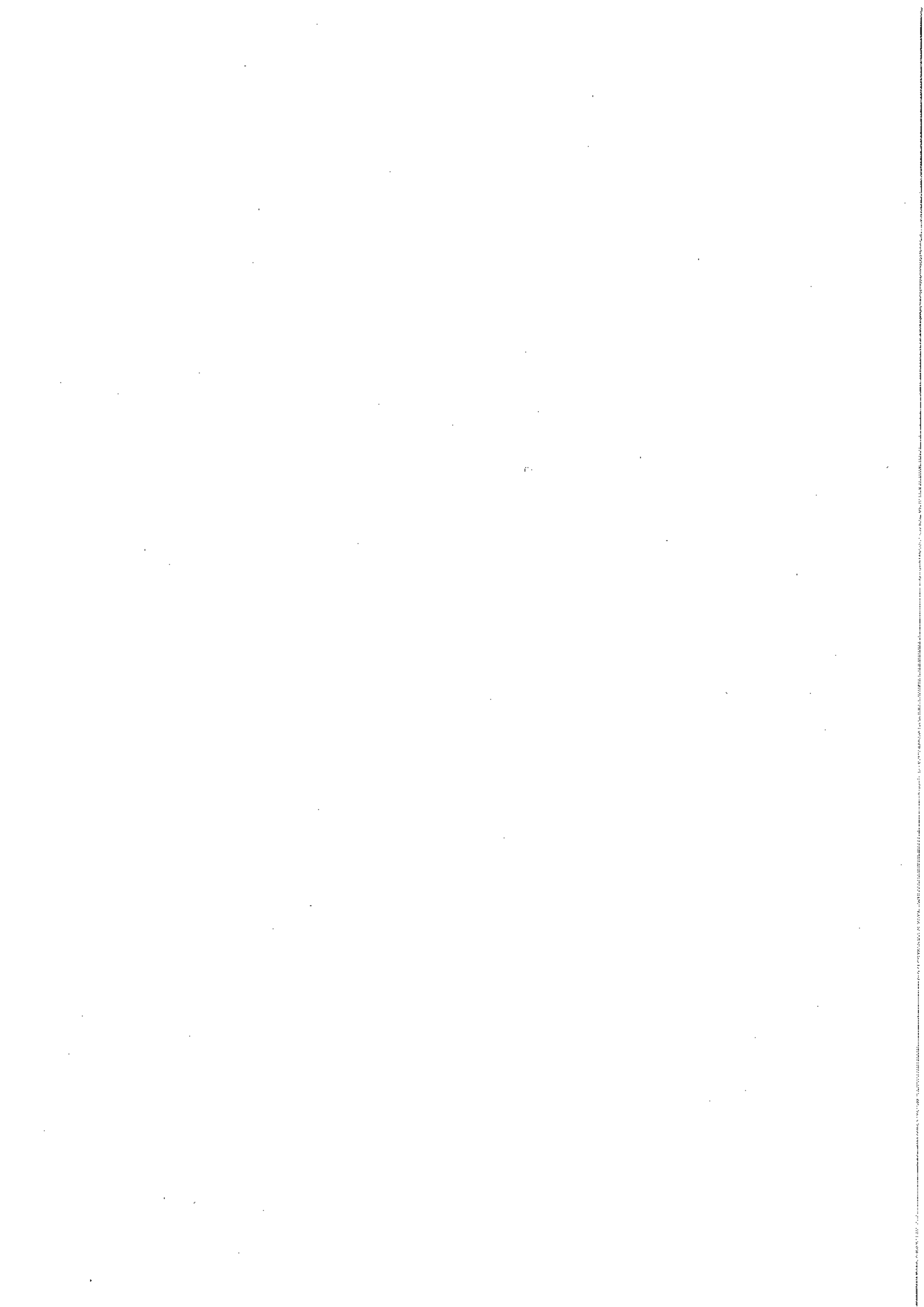
第1日 令和5年9月28日(木)

受 付	12:00～
アトラクション	12:20～12:50
全体会	13:00～16:45
開会行事	13:00～14:00
(1) 開会のことば	
(2) 国歌斉唱、公民館の歌斉唱	
(3) 主催者あいさつ	関東甲信越静公民館連絡協議会会長 櫻井 貞 文 公益社団法人全国公民館連合会会長 中 西 彰 長野県教育委員会教育長 内 堀 繁 利
(4) 祝 辞	文部科学省 高 木 秀 人 長野県知事 阿 部 守 一
(5) 歓迎のことば	長野市長 荻 原 健 司
(6) 来賓紹介	
(7) 祝電披露	
(8) 表彰式	公益社団法人全国公民館連合会表彰 関東甲信越静公民館連絡協議会表彰
記念講演	14:15～15:30
小平 奈 緒 さん	
演題：「人とつながる」	
文部科学省施策説明	15:45～16:15
高 木 秀 人 氏 (文部科学省総合教育政策局地域学習推進課課長)	
閉会行事	16:25～16:45
(1) 大会アピール	
(2) 大会旗引継ぎ	長野県公民館運営協議会会長 櫻井 貞 文 新潟県公民館連合会会長 久保田 千 昭
(3) 次期開催県あいさつ	新潟県公民館連合会会長 久保田 千 昭
(4) 閉会のことば	
情報交換会	18:00～20:00

第2日 令和5年9月29日(金)

分科会

受 付	9:10～
分科会	9:30～12:10
閉 会	12:10～12:20



第45回全国公民館研究集会
第63回関東甲信越静公民館研究大会長野大会
第71回長野県公民館大会

概要

テーマ「人をつなぎ、時をこえて、未来を創る」
～住民とともに今を切り拓く公民館～

1 趣 旨

公民館は、戦後の民主化と郷土の復興を目的として誕生して以来、時代のニーズや社会の変化に対応しながら、「集う・学ぶ・結ぶ」実践的な活動を通じて住民自治を創造する役割を担ってきました。

近年、大規模な自然災害が全国で多発し、ここ長野県においても、令和元年東日本台風の豪雨により甚大な被害を受けました。会場となる長野市は千曲川の堤防が決壊し、濁流が住宅地に流れ込む映像が全国に流れました。この時、公民館はいくつかの施設に被害を受けながらも、住民の避難所として、また、災害復興の拠点として大きな役割を果たしました。

しかし、その年の冬から流行が始まった新型コロナウイルス感染症により、公民館活動の原点でもある「集う」ことが大きく制限され、受け継がれてきた伝統行事や住民同士を繋ぐイベント等を中止、縮小せざるを得ませんでした。それとともに、人口減少や少子高齢社会が進み、地域の連帯感の希薄化や人々の公民館離れに一層拍車がかかることが懸念されます。さらに、国際事情の不安定化がもたらす経済の悪化も人々の生活に不安の影を落としています。

このような中で、今、公民館は何をすべきなのでしょう？

今こそ「集う・学ぶ・結ぶ」原点に立ち戻り、これまでの公民館の存在価値を維持しつつも、時代の変化やニーズに合った新たな役割や理念を模索していく必要があります。

コロナ禍で失われつつある住民共助の精神、ICTの進化の中で取り残される情報弱者の学びの支援、SDGsの取組み、行政・学校・企業を超えた多様な主体との連携・協働など視野を広げ、住民にとって真に必要な「学びの場・交流の場」としての公民館であるために、語り合う大会にしましょう。

人生100年時代、公民館は、これからも住民とともに今を切り拓く伴走者でありたいと願います。

2 開催期日 令和5年9月28日(木)～29日(金)

3 会 場	第1日:全体会	長野市芸術館	長野市鶴賀緑町 1613
	情報交換会	長野ホテル犀北館	長野市県町 528-1
第2日:分科会		長野市生涯学習センター	長野市鶴賀問御所町 1271-3
		長野県農協ビル	長野市南長野北石堂町 1177-3
		長野市東部文化ホール	長野市小島 804-5

4 主 催 公益社団法人全国公民館連合会、関東甲信越静公民館連絡協議会、
長野県公民館運営協議会、長野県教育委員会

主 管 第63回関東甲信越静公民館研究大会長野大会実行委員会

後 援 文部科学省 長野県 長野県市長会 長野県町村会 長野市

長野市教育委員会 長野県市町村教育委員会連絡協議会 長野県社会教育委員
 連絡協議会 信濃教育会 信濃毎日新聞社 SBC 信越放送 NBS 長野放送
 TSB テレビ信州 abn 長野朝日放送 NHK 長野放送局 (順不同)

5 参加者 公民館職員 公民館運営審議会委員 社会教育委員 教育委員会事務局職員
 社会教育関係施設職員 社会教育団体関係者 その他本研究大会への参加希望者

6 日程

第1日：全体会 9月28日（木）

受付	長野県 公民館大会	受付	式典 表彰式	記念講演	文部科学省 施策説明	閉会 行事	分科会 打合せ	情報交換会						
10:15	11:20	11:50	12:00	13:00	14:00	14:15	15:30	15:45	16:15	16:45	17:00	17:40	18:00	20:00

■ 記念講演 講師：小平 奈緒さん 社会医療法人財団慈泉会相澤病院

第2日：分科会 9月29日（金）

受付	分科会（発表・討論・まとめ）	閉会	
9:10	9:30	12:10	12:20

7 分科会

	分科会名 討議の柱	発表都県	発表テーマ	会場
1	地域防災① 関係部局とともに、危機管理体制を築くうえで公民館の果たすべき役割について考えます。	茨城県 結城市立公民館	市指定避難所のうち、感染症等体調不良者の避難所	長野市生涯学習センター
		埼玉県 行田市長野公民館	災害時における避難場所としての公民館の課題と対策について	
2	地域防災② 関係部局とともに、危機管理体制を築くうえで公民館の果たすべき役割について考えます。	群馬県 前橋市元総社公民館	地域・学校・市の連携を強化し、みんなが災害に強いまちづくりを！	長野市生涯学習センター
		新潟県 糸魚川市田沢地区公民館	子どもたちと一緒に考える地域防災	
3	公民館のあり方 公民館の5年後、10年後のあり方を通して公民館の持続可能性について考えます。	神奈川県 平塚市中央公民館	ESDの視点で企画と評価。 未来を魅せる公民館事業	長野市生涯学習センター
		長野県 富士見町公民館	長野県南信地区公民館の5年後・10年後	
4	これからの情報発信 地域で身近な公民館が、地域住民とつながるために必要な情報発信について考えます。	千葉県 船橋市中央公民館	ニューウェーブ ～公民館の新時代を目指して～	長野県農協ビル
		長野県 塩尻市塩尻東公民館	新たな選択肢が、 「これからの情報発信」だ	
5	多様な連携・協働① 人々が豊かに暮らせる地域づくりのための多様な主体との連携・協働について考えます。	山梨県 上野原市公民館連絡協議会	地域と連携した公民館活動を目指して	長野県農協ビル
		長野県 佐久市中央公民館	「公民館でつながる」6つの取組み	
6	多様な連携・協働② 人々が豊かに暮らせる地域づくりのための多様な主体との連携・協働について考えます。	栃木県 栃木市栃木公民館	地域を“つなぐ”公民館を目指して ～栃木市公民館の取組～	長野県農協ビル
		東京都 小金井市公民館	公民館が多様な主体との連携・協働の中核となる地域人材とつながるヒント	
7	地域コミュニティの復興 災害からの地域コミュニティの復興に果たすべき公民館の役割について考えます。	長野県 長野市長沼交流センター 家庭・地域学びの課	令和元年の長野市長沼地区における被災後の社会教育活動について	長野市東部文化ホール

8 参加費

3,500円（大会資料代・大会記録集代ほか）

記念講演

9月28日 (木) 14:15~15:30



演題

人とつながる

講師

小平 奈緒 さん

社会医療法人財団慈泉会 相澤病院

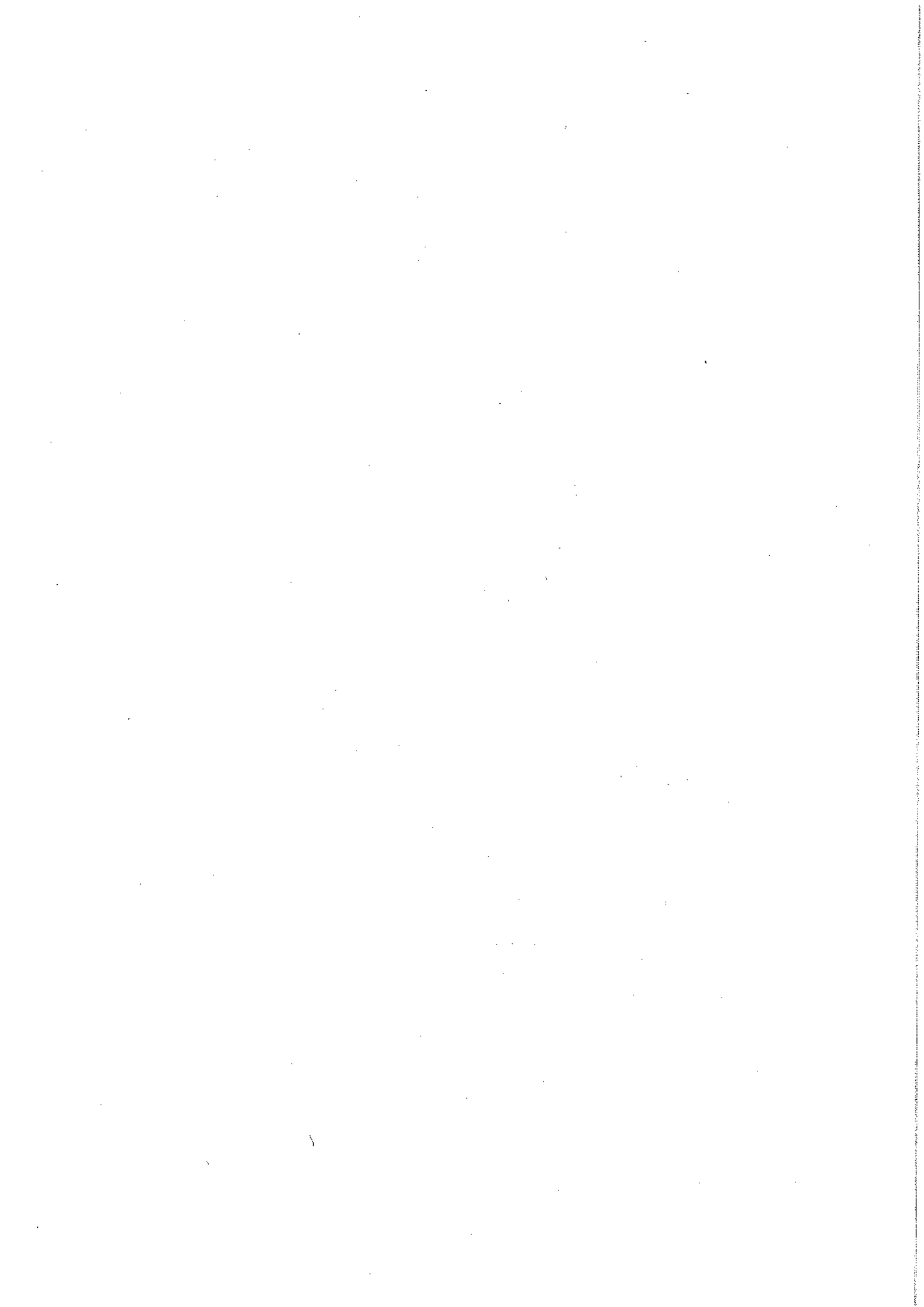
講師プロフィール

長野県茅野市出身。豊平小学校、茅野北部中学校、伊那西高校、信州大学教育学部卒。中学2年時に全日本ジュニア選手権スプリント総合部門で優勝し、“スーパー中学生”と呼ばれる。高校3年時はインターハイ500m・1000mの2冠。

大学時代は日本学生氷上選手権大会（通称インカレ）500mで4連覇。大学2年時に全日本距離別選手権の1000mで初優勝しワールドカップデビュー。大学3年時にユニバーシアード1500mで優勝。卒業後は相澤病院の支援を受け、信州大学教育学部を拠点に活動を継続。バンクーバー・ソチオリンピックを経験したのち、2014-2016に2年間練習拠点をオランダに移して研鑽を積み、帰国後のシーズンから国内外の500mで2年半負けなしの37連勝を記録（ワールドカップは20連勝）。その間、平昌オリンピックでのスピードスケート日本女子初の金メダル、世界スプリント総合優勝2回などに輝いた。

2022年10月競技生活のラストレースとなった全日本距離別選手権女子500mを8連覇13回目の優勝で有終の美を飾った。11月より母校信州大学の特任教授に就任。現在は、講演やイベントに充実した毎日を送っている。





分 科 会 構 成

	分科会名	討 議 の 柱	発表都県	参加者数	会 場
1	地域防災①	社会教育施設として活用されている公民館は、災害時に避難所等に指定されています。しかし設備面や物資供給等の体制が整えられているとはいえ、課題となっています。 この分科会では、関係部局とともに、危機管理体制を築くうえで公民館の果たすべき役割について考えます。	茨城県	51	長野市生涯学習センター 大学習室 3
			埼玉県		
2	地域防災②	社会教育施設として活用されている公民館は、災害時に避難所等に指定されています。しかし設備面や物資供給等の体制が整えられているとはいえ、課題となっています。 この分科会では、関係部局とともに、危機管理体制を築くうえで公民館の果たすべき役割について考えます。	群馬県	48	長野市生涯学習センター 大学習室 2
			新潟県		
3	公民館のあり方	少子高齢社会、アフター（ウィズ）コロナ、気候変動への対応など、公民館を取り巻く環境は激変しています。そうしたなか、これからの公民館の姿を明確にしていくことが必要となっています。 この分科会では、公民館の5年後、10年後のあり方を通して公民館の持続可能性について考えます。	神奈川県	102	長野市生涯学習センター 大学習室 1
			長野県		
4	これからの情報発信	新型コロナウイルス感染症の影響により地域住民が集い、交流する機会が制限されるなど、地域のコミュニケーションの減少が課題となっています。一方で、SNSの充実により情報の発信や受信のあり方が大きく変化しています。 この分科会では、地域で身近な公民館が、地域住民とつながるために必要な情報発信について考えます。	千葉県	71	長野県農協ビル 12A
			長野県		
5	多様な連携・協働①	人口構造の変化、生活様式や価値観の多様化等により地域課題は複雑多岐にわたり、その解決のためには、公民館が行政や大学、NPOなど様々な主体と連携・協働し、それぞれの得意分野を生かし、力を合わせて取り組むことが求められています。 この分科会では、人々が豊かに暮らせる地域づくりのための多様な主体との連携・協働について考えます。	山梨県	70	長野県農協ビル 12B
			長野県		
6	多様な連携・協働②	人口構造の変化、生活様式や価値観の多様化等により地域課題は複雑多岐にわたり、その解決のためには、公民館が行政や大学、NPOなど様々な主体と連携・協働し、それぞれの得意分野を生かし、力を合わせて取り組むことが求められています。 この分科会では、人々が豊かに暮らせる地域づくりのための多様な主体との連携・協働について考えます。	栃木県	55	長野県農協ビル 12C
			東京都		
7	地域コミュニティの復興	令和元年東日本台風災害における千曲川の堤防決壊により長野市長沼交流センター（旧長沼公民館）は、建物のもとより、地域のコミュニティも壊滅的な被害を受けました。 この分科会では、同センターの被災の状況とその後公民館活動を踏まえ、災害からの地域コミュニティの復興に果たすべき公民館の役割について考えます。	長野県	45	長野市東部文化ホール （柳原交流センター） 大学習室

※分科会助言者を含む

分科会担当者一覧表

No.	分科会名	担当都県	発表者		助言者	
			氏名	所属・役職	氏名	所属・役職
1	地域防災①	茨城県	飯塚 博史	結城市立公民館 館長	田中 健一	東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー
		埼玉県	樽見 哲廣 横田 範博	行田市長野公民館 館長 行田市長野地区自治会連合会 会長		
2	地域防災②	群馬県	小林 智之	前橋市元総社公民館 館長	小松 剛	長野県伊那市総務部 危機管理課防災係係長
		新潟県	堀田 岩吉	糸魚川市田沢地区公民館 館長		
3	公民館のあり方	神奈川県	矢後 大輔 今野 太智	平塚市中央公民館（八幡公民館）主査 平塚市中央公民館（大野公民館）主任	原 義彦	東北学院大学地域総合学部 教授
		長野県	北村 享一	富士見町公民館 館長		
4	これからの情報発信	千葉県	江口 勝美	船橋市中央公民館 館長	島田 英昭	信州大学学術研究院 教育学系教授
		長野県	林 徹	塩尻市塩尻東公民館 前主事		
5	多様な連携・協働①	山梨県	岡部 公史	上野原市公民館連絡協議会 会長	筒井 美保子	長野県公民館運営協議会 事務局付アドバイザー
		長野県	箕輪 美里	佐久市中央公民館 主事		
6	多様な連携・協働②	栃木県	永田 陽一	栃木市栃木公民館 主査	白戸 洋	松本大学総合経営学部教授
		東京都	小野 修平	ジョージ防災研究所代表・ぼくらむ代表 西東京市立明保中学校 地域学校協働活動推進員		
7	地域コミュニティの復興	長野県	平野 誠 清水 恵子 宮岡 晃子	長野市教育委員会(長沼交流センター) 社会教育主事 長野市教育委員会(長沼交流センター) 長沼担当職員 長野市長沼地区住民自治協議会職員	長澤 真一	長野市社会教育委員

司会者		記録者		責任者	
氏名	所属・役職	氏名	所属・役職	氏名	所属・役職
土屋 明美	小諸市公民館長	春日 亮太	伊那市西春近公民館主事	宮沢 英夫	長野市立古里公民館長
小笠原鉄夫	松本市入山辺 公民館長	浅井 勇太	松本市島立公民館主任	星野 陽一	上田市中央公民館長
細江 孝明	伊那市 伊那公民館長	小泉 良文	諏訪市公民館長	宮坂 隆	原村中沢公民館長
内山 修治	麻績村公民館長	安藤 寿秀	塩尻市中央公民館主事	青柳 信雄	塩尻市中央公民館長
篠原 靖昌	長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課 主任指導主事	中村 要	長野市立大豆島公民館係長	村松 直昭	飯山市公民館長
市川 正彦	立科町中央公民館長	龍野 賢一	長和町公民館長	宮下 春夫	長野市立浅川公民館長
市村 勝巳	小布施町公民館長	遠山 真也	飯綱町公民館主事	沖 弘宣	飯綱町公民館長

分科会助言者一覧

第1分科会



東京大学生産技術研究所リサーチフェロー

田中 健一 氏

東京大学災害対策トレーニングセンター講師、日本防災士会理事、兵庫県防災士会副理事長 神戸大学大学院工学研究科後期博士課程単位取得修了。

1985年兵庫県庁入庁、阪神・淡路大震災時は被災自治体の行財政支援に従事、その後26年間、兵庫県庁で災害対策、防災教育等に従事、2023年兵庫県庁退職。専門は被災自治体の自治体の災害対応マネジメント。

第2分科会



長野県伊那市総務部危機管理課防災係 係長

小松 剛 氏

平成12年4月高遠町役場入庁、合併後、伊那市職員。平成27年4月に長野県危機管理部へ派遣。神城断層地震、御嶽山噴火災害等の対応に従事。平成30年4月から伊那市危機管理課に所属。地区、学校、企業、福祉事業所等における防災の取り組みを支援。

人と防災未来センターDisaster Manager、危機管理士1級。地域安全学会員、日本危機管理防災学会員。

第3分科会



東北学院大学地域総合学部 教授

原 義彦 氏

長野県松代町出身。宮崎大学、秋田大学の勤務を経て2022年より現職。公民館運営の問題点とその改善策を示す公民館経営診断技法の開発を行なっている。そのため、全国各地の公民館の充実・改善事例を収集中。現在、日本生涯教育学会会長、中央教育審議会生涯学習分科会専門委員、秋田県大潟村応援大使などを務めている。

第4分科会



信州大学学術研究院教育学系 教授

島田 英昭 氏

長野県上田市生まれ。1999年筑波大学第一学群自然科学類数学専攻を卒業後、専攻を心理学に変え、2004年筑波大学大学院心理学研究科修了、博士（心理学）。産業技術総合研究所特別研究員、日本学術振興会特別研究員を経て、2007年信州大学教育学部助教、2009年同准教授、2019年同教授。専門は教育心理学、認知科学、教育工学。

第5分科会



長野県公民館運営協議会 事務局付アドバイザー

筒井 美保子 氏

松本市役所入庁後、主事、館長など通算18年間にわたり公民館業務に携わる。平成26年長野県公民館運営協議会長、平成28年から長野県生涯学習推進センター公民館支援専門アドバイザー、令和3年より現職。主事、館長などの経験を活かしたアドバイスで長野県の公民館を支えている。

第6分科会



松本大学総合経営学部 教授

白戸 洋 氏

大学卒業後、政府開発援助や国際機関の地域開発、コミュニティ開発の専門家として、10年間アジア・アフリカの開発事業に従事。平成3年より信州の村づくりを学ぶために松本に移り玉井袈裟男氏に師事する。その間、若者と触れ合い、教育の面白さに惹かれ、平成11年より大学教員となる一方で、一住民として公民館と関わってきた。

第7分科会



長野市社会教育委員

長澤 真一 氏

長野県教育委員会事務局勤務を経て令和3年度から現職、現在2期目。明るく元気な地域づくりを目指して、市内の各地で行われている特色ある活動を市内全域に面として展開していくための実践的な活動に取り組んでいる。

市指定避難所のうち、感染症等体調不良者の避難所

茨城県結城市立公民館
館長 飯塚 博史

1 はじめに

(1) 結城市の概要

茨城県結城市は、東西6キロメートル、南北13キロメートルと、長い形をしており、総面積は65.76平方キロメートルとなっています。令和5年4月1日現在の人口は5万177人、関東平野の中央、茨城県西北端で栃木県との県境に位置し、都心から約70キロ、新4号国道と国道50号が交差する交通の要衝にあり、明治時代には、養蚕の村、紬の町として歩み始めました。

1954（昭和29）年、結城町、絹川村、上山川村、山川村、江川村の1町4か村が合併し、結城市が誕生しました。当時は、紬、タンスや下駄などの桐製品、かんぴょう、皮革などの産業が盛んで、市街地には、問屋が並んでいました。

2010（平成22）年に「結城紬」がユネスコ無形文化遺産に登録され、国内外に結城市の名が広まり、市北部地区には中世の城下町の町割りや、当時からの寺や神社、見世蔵など歴史的な建物が多く現存し、伝統的な地場産業が根付いている歴史と文化の薫るまちです。

(2) 結城市立公民館

結城市立公民館は、1954（昭和29）年、市内浦町に建設した木造2階建て公民館に始まり、1970（昭和45）年10月に勤労青少年ホームを併設し、平成30年5月に、西の宮地内に現公民館本館を移転建設しました。

2010（平成22）年11月、鍛冶町地内に「北部分館」を開設し、現在2館体制で運営しています。

2 避難所指定の経緯

(1) 平常時の公民館について

本市公民館は、2階建て延べ面積755.20平方メートルであり、平常時貸館できる部屋は1階に集会室及び音楽室で3部屋、調理実習室、管理事務室等、2階に、集会室3部屋、和室等があり、階段とエレベーター及び非常階段を設置しています。

スタッフは、市職員2名、会計年度任用職員2名、市シルバー人材センターの窓口業務3名の計7名で運営しています。

(2) 新型コロナウイルス渦中の避難所認定

ア. 災害時市指定避難所認定

2021（令和3）年6月、本市における災害時市指定避難所として、「結城市立公民館本館」が、「感染症等体調不良者の避難所」に認定されました。

イ. 避難所認定後の災害状況

折しも、令和3年度認定当時は、「新型コロナウイルス」蔓延中でありましたが、幸いなことに、3年度・4年度共に避難所の開設はありませんでした。

しかし、令和5年度になってからは、日本海側の石川県能登半島や北海道釧路沖、関東地方では千葉県南部、伊豆諸島、南日本ではトカラ列島近海など、全国各地で震度5弱以上の地震が多発しています。また、近年の地球温暖化の影響と思われる、数十年に一度の規模と言われる「線状降水帯」や「ゲリラ豪雨」が日本各地で発生しています。

本市は、2011（平成23）年に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の時や、2019（令和元）年「令和元年東日本台風（台風第19号）」の時に、市指定避難所を開設していました。

3 体調不良者等避難所開設訓練の実施

(1) 体調不良者等避難所について

市指定の避難所は、「市立公民館」から300メートルほどのところに「結城小学校体育館」があります。その受付にて、「コロナウイルスの濃厚接触者」という申告があった者、あるいは「37.5度以上の発熱者」を健常者と隔離するため、「感染症等体調不良者の避難所」である結城市立公民館に移動することにしています。

(2) 避難者受入れについて

避難所設営にあたり、公民館配属の市職員2名と、「避難所設置」命令で市本庁舎より派遣された市教育委員会のスタッフ数名は、「感染防止」のために、「感染防護衣」を装着します。

公民館全体を、市職員等スタッフの「グリーンゾーン」、「体調不良避難者」が避難する「イエローゾーン」、「濃厚接触避難者」が避難する「レッドゾーン」の3つのエリアゾーンに区分します。3つのゾーンは、市のスタッフ以外は往来を禁止し、完全に分離します。

(3) ゾーン分け避難について

避難者は、「避難者名簿」に記入後、1階入口にて「濃厚接触避難者」と「体調不良避難者」に分類します。「体調不良避難者」は、1階にて受付後、「イエローゾーン」を通過して、1階の男女別避難室へ避難します。「濃厚接触避難者」は、受付後館内には入らずに外を回り、2階へ続く非常階段を使って2階へ。2階で受付後、「レッドゾーン」を通過して、2階の男女別避難室へ避難します。

ゾーン分けすることによって、避難所入館時以降の感染防止を図っています。

(4) 訓練内容について

避難所設営にあたり、避難部屋に、ダンボールベットとワンタッチテントという簡易テントを用意しました。避難生活が始まると、ライフラインが確保できていれば、室内の照明等は点灯し、飲料水、トイレ等の心配もありません。しかし、「東日本大震災」時には、ライフラインが止まった中での避難所生活が長期化した経験があります。

そこで、公民館としては、ガソリンによる非常用発電機の作動、そして水を使わず熱圧着によって排泄物を1回毎にラップ（個包装）して密封するポータブルトイレの訓練を行いました。

4 今後の課題

普段、災害のない平常時、「公民館」は社会教育施設として学習の機会や場所の提供を行っています。

しかし、ひとたび災害が発生し、避難所開設となった際には、公民館で受け入れた避難者が不便をきたさずに避難生活を続けられるように、受け入れスタッフが、万全を期して訓練し続けていくことが課題であると考えています。

災害時における避難場所としての公民館の課題と対策について ～地域公民館は、「生涯学習、防災」の活動拠点～

埼玉県行田市長野公民館 館長 樽見 哲廣
行田市長野地区自治会連合会 会長 横田 範博

1 はじめに

(1) 行田市の概要

行田市は、埼玉県の北部に位置し、全体的に起伏の少ない平坦な土地をしており、低地と比較的高低差の少ない台地が分布し、広い範囲で氾濫平野が広がっています。

また、北に利根川、南に荒川、市内を縦横に流れる忍川や星川など豊かな水系に恵まれ、米麦作を基幹とした農業地帯として発展しております。

市の総人口は、平成12年をピークに減少が続いており、令和5年1月1日現在で78,741人となっており、人口減少に伴う地域防災力の低下が懸念されております。

(2) 行田市の公民館の概況

ア. 市内に中央公民館と16館の地域公民館を設置。

イ. 地域公民館の職員は、館長、生涯学習推進員、主事、協力員、館の規模により4～6人配置。

ウ. 16地域公民館に運営委員会を設置。

(3) 地域（団体）が抱える課題

ア. 行政、企業、学校などが連携しての防災訓練への取り組みも見られるが、各主体がさらに連携を取り、一体となって防災活動を行うことが求められる。

イ. 大規模災害発生時には、住民の防災意識も高まるが、しばらく災害が起こらないと意識が下がり行動も続かなくなる。日頃から継続的に活動を行うことが重要である。

ウ. 防災訓練についてもマニュアルに沿って決められたことをやるだけでなく、各主体間のこれまでの活動の経験を踏まえて地域の実情に即した実践的な訓練が行われることが肝要である。

2 事業の実践内容

(1) 事業のねらい

行田市はこれまで災害の少ない市とされてきましたが、関東大震災から88年後、「災害は忘れたころにやってくる」と良く耳にする事が現実となり、2011（H23）年3月11日（14時46分）『東日本大震災が発生』行田市内は震度5強に見舞われました。

又、令和元年台風第19号では床上浸水55棟、床下浸水201棟、自動車浸水187台の災害に見舞われました。長野公民館でも、緊急避難所を開設し14名の避難者を受け入れました。

東日本大震災発生をきっかけに、自治会内に自主防災組織を立ち上げ、活動拠点を地元公民館に防災本部を設置する自主防災要綱を作成し、2012年（H24）年6月17日付で各会員宅へ防災要綱を配布し、自主防災組織をスタートしました。

(2) 事業の具体的内容

地域公民館は生涯学習の場であると同時に、防災活動の拠点でもあります。いざ、災害が発生した場合は即、避難所となる一面も兼ねています。公民館は地域に寄り添い、そして、なくてはならない地域防災の要でもあります。

- ①災害時の被害軽減を目的とした防災設備調査に着手
- ②支え合いマップ・認知症を学習し支援の輪拡大に着手
- ③災害被災者への人命救助活動について
- ④災害被災者への支援体制強化策について
- ⑤行政指導による自主防災組織に防災士設置依頼

(3) 関係団体とのかかわり

①毎年消防署指導による、多くの地域住人及びクラブ参加での、防災訓練を以下のとおり行っています。

非常放送訓練、避難訓練、消火器訓練、AED訓練

②長野地区自治会連合会主催で地域公民館協賛による学習会を開催し、テーマ「男女共同参画による避難所生活及び認知症学習会」を多くの行政関係部門のご協力のもと、自治会長、民生児童委員、災害時避難所となる建屋責任者（学校長）にも参加して頂き、地域のリーダーとの親睦と防災講習会を実施しています。

3 成果と課題

(1) 事業や実践に対する成果と課題

長野公民館主催の女性学級及び長野学級においては、DVD等使用して防災訓練を行っています。それにより地域住民は防災意識が高まりましたが、今後は消防署・行田市危機管理担当等と相談して更に、防災訓練の充実を図りたいと思います。

(2) 今後の展望

長野公民館では文化祭に料理クラブによる弁当の試食を来場者に振舞っています。今後はクラブの協力をいただき、地域の皆さんと一緒に炊き出しをしたり、男性学級や小学校の家庭教育学級の一環として炊き出しを経験していただくなど、各々の防災意識を高めるために、公民館としても協力していきたいと考えています。

また、厚生労働省の発表によると2025年には、5人に1人が認知症になるとも言われております。この度、自治会単独で認知症学習会開催に向け関係部門へ相談交渉した結果、声かけ模擬体験も一緒に行田市初の試みとして、災害発生時を想定した取組として自治会役員を主に実施しました。今後も、地域公民館を活動拠点として、自治会連合会と各種団体合同行事として展開できればと考えております。

地域・学校・市の連携を強化し、みんなで災害に強いまちづくりを！

群馬県前橋市元総社公民館
館長 小林 智之

1 はじめに

(1) 前橋市の概要

前橋市は、群馬県の県庁所在地で県内中央部よりやや南に位置し、東京から北西約100kmの地点にあります。市域の北部は上毛三山の雄、赤城山に至り、北から南に向かって緩やかな傾斜となっています。市の中央部から南部にかけては、海拔100m前後の関東平野の平坦地が広がり、本市を両分する形で南流する利根川の両岸に市街地が開けています。

(2) 前橋市の公民館の概況

前橋市には中央公民館の他、15の地区公民館があります。地区公民館は昭和、平成の合併地区ごとに設置されています。また市の中心部には5つのコミュニティセンターがあり、それぞれが社会教育活動の拠点となっています。

公民館の利用団体数は、中央公民館で700ほど、地区公民館で50～60団体ほどが登録して活動しています。年間の利用者数は、中央公民館で35万人ほど、地区公民館では多いところで7万人ほど、少ないところで2万人ほどの利用者がいます。

(3) 前橋市元総社地区が抱える課題

市域全体では、それぞれの地域が人口減少、若年人口の減少、高齢化の加速等の課題を抱えています。高齢化により地域行事などの継続が課題となっています。

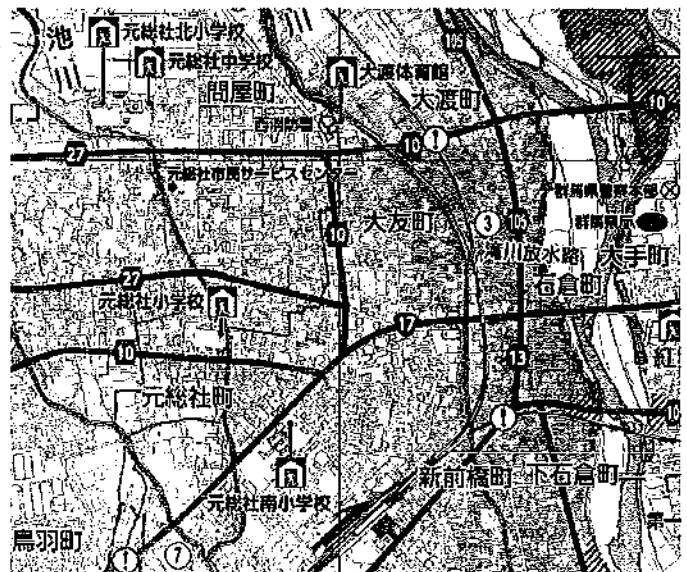
元総社地区は、国府関係の発掘物や総社神社などの豊かな史跡に恵まれ、それに伴う民俗芸能なども残っていると同時に、小学校など学校も多く、子育て世代の住民が多く居住しており、子育て支援の充実を図っていくとともに、世代間の交流を進め、伝統行事等の維持と継承に努めていくことも課題となっています。

2 事業の内容

(1) 防災活動に取り組むきっかけ

群馬県は地震や風水害などの自然災害が非常に少ない地域であり、前橋市元総社地区でも自然災害に対する住民の意識は低く、テレビなどで地震や大雨などの被害を目にしても、他人事と感じる方が多数を占めていると思います。

こうした中、令和3年6月に前橋市の洪水・土砂災害ハザードマップが見直され、元総社地区の一部が新たに浸水想定区域に設定されることとなりました。



洪水・土砂災害ハザードマップ

水害は他人事ではなく、自分たちにも起こりうることでありと認識してもらうため、地域防災の専門家である群馬大学大学院理工学府の教授を防災アドバイザーに迎え、元総社地区として防災活動に取り組むこととなりました。

(2) 今までの取り組み

令和3年度は水害対策をテーマとして、また、令和4年度は地震対策をテーマとして、それぞれ講演会や避難訓練、ワークショップ、リーフレットの作成・配布などに取り組みました。

元総社地区地域づくり協議会の安全安心部会が中心となって取り組んでいますが、避難訓練やワークショップなどの開催時は、自治会連合会、小中学校、女性防火クラブ、市役所防災担当課などの関係団体等と連携しながら、より効果が高いものになるように努めました。



地震対策リーフレット



ワークショップ

3 成果と課題（今後の展望）

(1) 過去2年間の成果、課題

年度ごとのアンケート調査により、今までに3回作成した毎戸配布のリーフレットに対する認知度が上がってきており、また、緊急避難場所への理解も増加していることがわかりました。さらに、実際に避難場所となる小中学校を会場として避難訓練を行っているため、参加者による主体的な避難所運営につながっているものと考えています。

ただし、講演会や避難訓練などに参加するのは、自治会の役員などの固定化したメンバーになっているので、一般の住民にも自分事として参加してもらうことが課題になっています。

(2) 今後の方向

自然災害が少ない地域なので、「日頃から防災意識を高く持とう」とハードルを上げるのではなく、最低限、水害が起こるかもしれない、地震の被害を受けるかもしれない、そのようなときに、「命を守るための行動」を意識してもらうことが大切であると考えています。

また、過去2年間の取り組みを参考にしながら、地区全体での講演会などの開催とあわせて、自治会単位での避難所運営方法の確認や、災害時における要支援者への支援方法の検討にも取り組むこととしています。



避難訓練

子どもたちと一緒に考える地域防災 田沢小学校コミュニティ・スクール事業（4年生防災学習）

新潟県糸魚川市田沢地区公民館
館長 堀田 岩吉

1 はじめに

(1) 糸魚川市の概要

新潟県の最西端に位置し、西は富山県・南は長野県と接しています。平成17年に旧糸魚川市と西頸城郡能生町、西頸城郡青海町の一市二町が合併して新糸魚川市が誕生しました。2009年（平成21年）に日本で初めて「ユネスコ世界ジオパーク」に認定された糸魚川市は、糸魚川静岡構造線が走り、日本海はもちろん、国立公園（中部山岳、妙高戸隠連山）や県立自然公園（親不知子不知、白馬山麓など）を有しており、ヒスイや化石、断層・海岸・溪谷・温泉・スキー場といった個性豊かな自然に恵まれています。

(2) 公民館の概要

平成26年4月から糸魚川市21地区公民館体制（糸魚川地区10公民館、能生地区7公民館、青海地区4公民館）になり、田沢地区公民館も同時期に新設されました。田沢地区公民館管内の人口は市内人口の11%を占めており、多くの方が生活しています。田沢地区公民館では「管内の5つの自治会と連携し地域を元気にする」を合言葉に3つの基本方針：【1. 「つどう、まなぶ、つなぐ」みんなの公民館となるように努める】、【2. 田沢地区の地域づくり「田沢まちづくりの会 たざわの輪」を推進する】、【3. 田沢小学校・青海中学校コミュニティ・スクール活動との連携を図る】を掲げ活動を行っています。

【田沢まちづくりの会 たざわの輪】について

田沢地区には5つの地域・自治会があり、平成31年3月に高齢化率が大きく進行したことにより、まちの活力が失われていくことを危惧した中で、「たざわの輪」の活動がスタートしました。交流促進・資源活用・環境整備・広報の4つの部会で構成され、各部会で小学校と連携し教育活動の支援にも取り組んでいます。環境整備部会では、“防災教育事業”の一環として小学校と連携し、中越大地震を学ぶ施設（長岡震災アーカイブセンター・やまこし復興交流館）の見学会や防災学習教材を使った学習会などを行っています。

【コミュニティ・スクール（C・S）活動との連携】について

田沢小学校は、平成28年に糸魚川市コミュニティ・スクール事業のモデル校として指定され、小学校区の後援会、公民館、自治会、PTA、民生委員児童委員などで構成する学校運営協議会を立ち上げました。専門部の組織体制を構築し、地区の子どもたちに郷土教育を行っています。

2 田沢小学校コミュニティ・スクール事業（4年生防災学習）の内容

平成29年から地域連携及び自主防災の地力をつけるため、「田沢小学校コミュニティ・スクール事業（4年生防災学習）」に取り組んでいます。

（1）平成29年

大雨・洪水を想定した避難体験学習をテーマに、児童を自治会別に分け、自治会担当者とともに通学路・生活場所の危険箇所を拾い出し、実際に歩いて危険箇所を確認する防災学習・防災訓練を行いました。

（2）平成30年

大阪北部地震で発生した通学路のブロック塀崩壊による小学生の死亡事故を踏まえ、この年から消防本部提供の地域別地図を使用し、学校区内通学路のブロック塀点検を新たに行いました。また、毎年行われている糸魚川市防災訓練への児童参加率アップを事業目的に加えました。

（3）令和元年

平成28年に発生した糸魚川市駅北大火を教訓とし、消防本部では一般の人でも扱える40mmホースの開発を行い、自治会等でも初期消火が可能になりました。40mmホースと水消火器を使った初期消火訓練を防災学習の内容に加え、毎年行うこととして現在に至っています。

（4）令和3年

地震が多発する状況を踏まえ、地震・津波を想定した避難体験学習にテーマを変更しました。ハザードマップの見方や東日本大震災の被災状況などを消防本部から講義していただき、防災学習の内容が濃くなりました。

3 成果と課題

（1）事業の実践に対する成果

この継続している防災学習の実施について、各自治会の協力により【子どもたちと一緒に考える地域防災】の意識が根付き、児童や保護者、地域住民の防災訓練への参加率向上も図られ、一定の成果が得られました。加えて、事業を通じて子ども達が地域の人達の顔を覚え、「お早うございます」・「こんにちは！」の挨拶が増えたように感じます。このことから、3つの助け合い「自助・共助・公助」についての基本的な考え方が地域に定着したと思われます。

（2）今後の展望について

新型コロナウイルス感染症対策として中止していた糸魚川市防災訓練は、3年ぶりに実施されましたが、出席者は例年の半分位と少なく、子どもたちの出席も少ない状況でした。高齢化率も高まり一人暮らし世帯も増えていく状況の中で、3つの助け合いの一つ足して4つの助け合い【自助・共助・公助・近助（隣近所への目配り）】が大事に思われます。この事を考慮しながら、田沢小学校コミュニティ・スクール事業の継続・展開を図って行きたいと考えています。

ESDの視点で企画と評価。未来を魅せる公民館事業 公民館事業に「楽しかったね+@」を

神奈川県平塚市中央公民館（八幡公民館）主査 矢後 大輔
神奈川県平塚市中央公民館（大野公民館）主任 今野 太智

1 はじめに

(1) 市町村の概要

平塚市は神奈川県ほぼ中央、相模平野の南部に位置し、約3.8kmの海岸線を持つ湘南の都市です。背後には丹沢・大山が控え、西方には富士・箱根連山を遠望でき、温暖な気候に恵まれています。昭和7（1932）年市制施行。人口は約25万8千人、面積67.88km²。湘南に夏の訪れを告げる「湘南ひらつか七夕まつり」をはじめ、湘南ベルマーレのホームスタジアムや箱根駅伝の中継所がある街として知られている。



(2) 市町村（団体）の公民館（団体）の概況

平塚市は中央公民館と25の地区公民館を設置している。中央公民館には職員10人、地区公民館には、それぞれに地区公民館長（非常勤特別職）、主事（職員）を配置し、19の館には公民館事務員（会計年度任用職員）を配置している。公民館は各館13人の公民館運営委員との連携のもと、社会教育活動の拠点として教育事業を展開するほか、地域団体の活動の場として利用されている。

(3) 地域（団体）が抱える課題

時代のスピードが速く、価値観の更新が次々と追られている。公民館では趣味や教養に留まらず、地域課題から現代的課題まで多くの学習機会を提供。こうした中、世界規模では持続可能な社会の形成が求められており、公民館においても様々な課題を自分事として捉える人材や意識を育てる必要性を感じていることから、国連が提唱する「地域に根差した持続可能な開発のための教育」（ESD）の取組を意識した事業を展開している。

2 事業の内容

(1) 平塚市のESDの取組

ESD（Education for Sustainable Development）は、持続的な社会の創り手を育む教育をと、2002年に日本が提唱した考え方。以降、ユネスコを主導機関として国際的に取り組まれている。平塚市では、市内にある東海大学のコーディネートのもと、2019年にユネスコアジア文化センター公民館研究グループの事業協働地域に選ばれた。2019年は市内4館をモデル館にし、これまでどおりの事業を展開しながら、その事業の中にESDの要素がどれくらいあるか研究した。2020年度には、ESDの取組先進市である岡山市にならい、すべての公民館学習事業を7つの指標（自分事、学び合い、展望、参加、育て合い、行動、一緒に）で評価。その結果、行動（小さくても次の行動や行動の変容に繋がるような要素があったか）の項目で高い評価が得られた。2021年度は、前年度同様の評価を実施しながら、独自の評価指標を研究した。その研究により平塚版の評価指標「nadeshiko view」を策定し、2022年度から運用を開始した。



(2) nadeshiko view

より客観的に評価できる目安をと、社会教育主事有資格者を中心とした公民館職員検討部会で市民の花「なでしこ」になぞらえた評価指標を作成した。新たに作成した指標は、なでしこの5枚の花びらと同数の次の5つ。

①気づき	<u>Notice</u> こんなところに咲いてるね 自分の周りに様々な課題や繋がりにあることに気づけたか
②未来	<u>Future</u> 種から芽が出て花になる どんな未来にしたいか考え、望む社会を思い描けたか
③自分事	<u>Self</u> 私もだれかの花になる 関心がわいたり、自分にできることが分かったりし、行動しようと思えたか
④様々な視点	<u>Inclusion</u> お花の目線はどんなかな 互いを認め合いながら、様々な視点で物事を考えられたか
⑤協力	<u>Cooperation</u> いっぱい咲くときれいだね 協力することに楽しみを感じ、成果が生まれたり、新しいことが創造できたりしたか

(3) 事業の進化

新たな考え方は、取り入れることに難儀な面があるが、これまでの事業内容を変えずに始めたことから、職員や地域が「変化」ではなく、「進化」であると捉え、各公民館の事業に浸透した。

今では、「楽しかったね」に+@の事業がいくつも見られる。

(4) 地区公民館での事業展開

ア. レシピの再現と釣りかるた

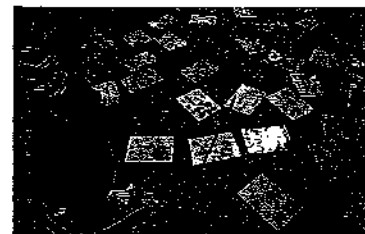
平塚市に居を構えた明治時代のジャーナリスト村井弦齋のベストセラー「食道楽」に登場するレシピの再現と、村井弦齋の名言をかるた遊びにした「弦齋食育釣りかるた」で、食事、食育について、考えてもらうきっかけにする。また、地域の食材を使用することで、地域の良さと歴史に触れ、地産地消につなげることをねらいとしている。

イ. 企画

「子どもにどのような食事をつくったら良いのか」「地域の食材を知ってほしい」といった地域の声を受け、地域にある資源（自然、歴史、文化、人）を研究。県内一の米どころであり、「はるみ」という品種の米があること、明治時代の小説「食道楽」の作者・村井弦齋が居を構えていたことを柱とした。公民館運営委員会で企画を提示しながら煮詰め、玄米で団子を作ることと、釣りかるた（大判にした食育かるたを釣る）を実施することとした。

ウ. 成果

玄米の価値や白米との違い（気づき）、将来の農業についての思い（未来）、子どもたちが地元食材に触れながら、自分で調理する（自分事）といった学習ができた。また、かるたを通じた地域の人との交流（様々な視点）が生まれ、この事業のために協力いただいた農家や講師とは次の事業についての創造が始まった（協力）。



釣りカルタで食育を学ぶ

(5) 終わりに

今までと同じことをしていたり、何もしないでいたりすると、失われる世界があります。大切なものがいつまでも続くようにつなぎ直す必要があります。そのために、公民館ができることは何でしょうか。平塚市の公民館では、なでしこの5枚の花びらのように、ESD5つの指標を開かせ、健気にやさしく、ときに風に身をまかせながら事業を進め、寄り添い輝く持続可能な未来へ、意識と人を育てていきます。

長野県南信地区公民館の5年後・10年後

長野県富士見町公民館
館長 北村 享一

1 はじめに

公民館は、戦後、日本の民主化と荒廃した郷土の復興を目的とし、学習と交流を通じて住民自治の意識と力量を高めていく拠点として誕生しました。特に長野県では、行政など関係機関と分館とが連携・協働しながら自らの暮らしをつくってきたのが公民館活動であり、その特質は、今日「信州の公民館7つの原則（原点）」として確認されています。

表1 信州の公民館7つの原則（原点）

- | |
|--|
| ①公民館は、身近な町・村・地区に設置される（身近な地域主義） |
| ②公民館活動の主役は、住民である（住民主体） |
| ③公民館の学習の中心は、よりよい地域を築くための学習である（地域課題学習） |
| ④住民は、公民館で学んだことを地域づくりに生かしていく（地域づくり運動） |
| ⑤足元の町会・自治会に身近な分館や自治公民館が設置される（分館活動） |
| ⑥公民館には、やる気と力量のある公民館主事が配置される（公民館主事配置） |
| ⑦公民館は、市町村自治に基づいて運営され、学習の自由を保障する（自治と自由） |

出典）『長野県公民館活動史Ⅱ』編集委員会（2008：413）

長野県は公民館の数が全国で最も多く、令和4年度の県内の公民館数は、県教育委員会が文部科学省に報告した数字として、本館（中央館）が87館、本館（地区館）が222館、分館が1,480館となっています（いずれも4月1日現在）。また、公民館活動を行っている公民館数でみると、令和5（2023）年4月1日現在で、中央館・本館が311館、分館が1,769館、条例にない自治公民館が1,776館の合計3,856館となっています。

県内の各公民館は、公民館活動の原点である「集う・学ぶ・結ぶ」の理念のもと、地域課題を捉えた学習を通して住民自治の向上に一層注力するとともに、それぞれの地域の人々が豊かに暮らしていける持続可能な地域を目指して様々な活動を行ってきました。

しかし、令和元年冬頃から新型コロナウイルス感染症が蔓延し始め、以後3年以上にわたりその影響が続く中、IT化の波や急激な社会変革、生活様式や価値観の変化が進んできたことにより、地域社会において「公民館は何をすべきか」を考えていく必要が出てきています。これからの公民館のあり方について、実際に公民館に携わっている方々の意見をお聞きしたいと思います。

2 長野県南信地区の公民館について

南信地区は、木曾地方を除く長野県南部の地域で、八ヶ岳西南麓から諏訪湖周辺および天竜川流域に位置し、西は中央アルプス、東は南アルプスに囲まれています。北から諏訪郡、上伊那郡、下伊那郡の3郡で29市町村あり、公民館数は中央館と地区館合わせて68館あります。

今回は、この南信地区にある各公民館にご協力をいただき、コロナ禍を経て公民館が抱える課題や問題点、これからの公民館のあり方について、アンケートを行い、その集計結果をまとめることとしました。

また、コロナ禍下において工夫された公民館の事例についてもご紹介します。

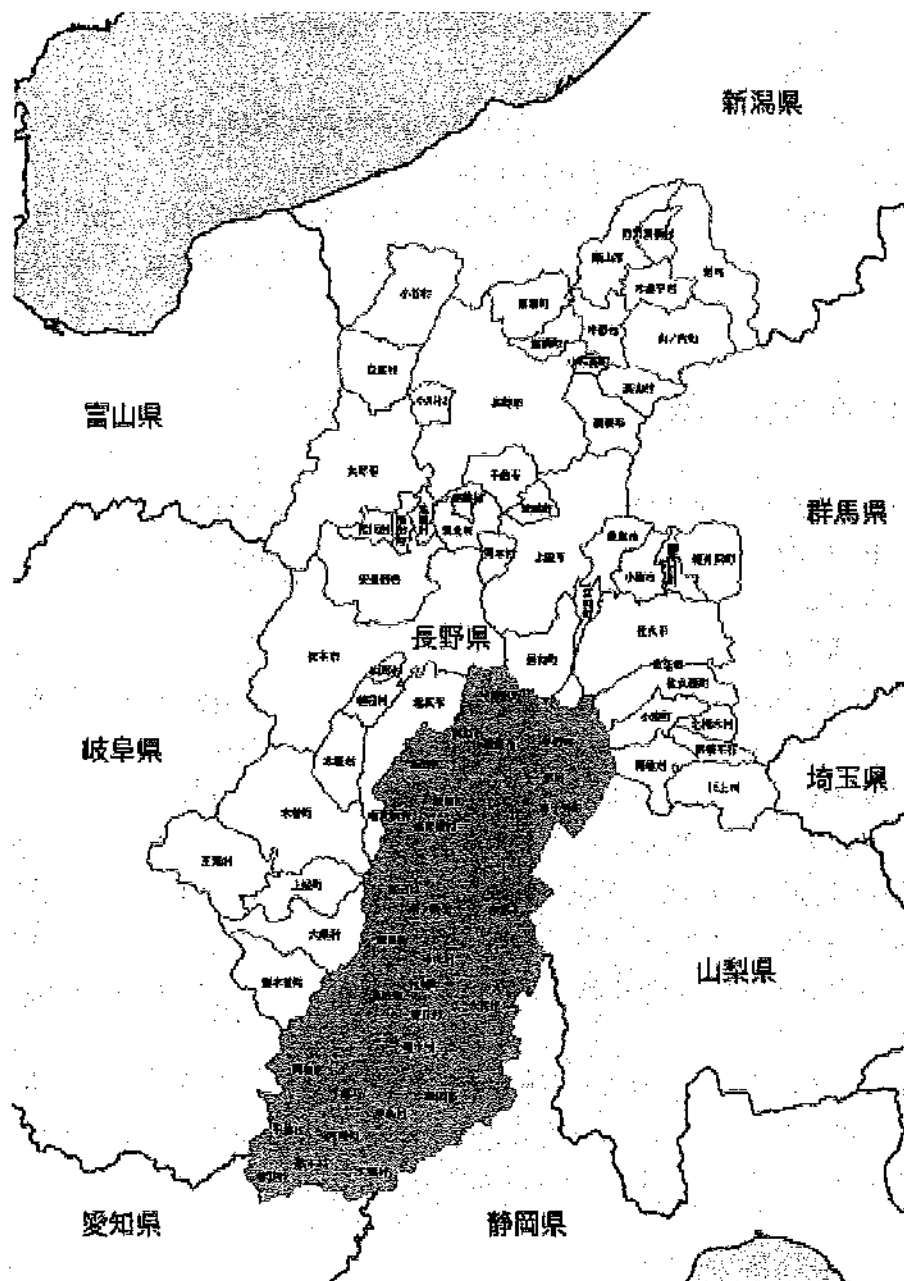


図1 長野県南信地区

ニューウェーブ～公民館の新時代を目指して～

千葉県船橋市中央公民館
館長 江口 勝美

1 はじめに

(1) 船橋市の概要

船橋市は、昭和12年4月1日に2町3村が合併して誕生した、千葉県の北西部に位置するまちである。都心や成田国際空港から近いばかりではなく、京葉港や豊かな交通網を併せ持つなど、非常に恵まれた立地条件を備えている。現在は人口64万人を超え、中核市で一番の人口を誇る都市である。

(2) 船橋市の公民館の概況と課題

船橋市には26公民館が設置されており、それぞれの公民館が地域の特性を考慮した事業を実施している。令和4年度は全公民館で年間1,031講座開催した。

課題としては、公民館の利用者層に偏りがあることや、公民館が発信した情報が市民に届いていないことなどがある。生涯学習を推進するためには、「新しい利用者層に向けた事業の展開」や「PR方法」を強化する必要がある。

2 新たな利用者層に向けた事業の展開およびPR方法

(1) ねらい

様々な生活環境の方が公民館事業に参加できるよう、開催方法や内容を工夫するとともに、幅広い年齢層に届くPR方法を実践することで、生涯学習活動の推進を図る。

(2) 具体的な取り組み

ア. オンライン講座の実施

新型コロナウイルス感染対策による「新しい生活様式」への適用や時間や場所にと捉われずに学習できるようオンラインを利用した学習の提供に取り組んでいる。

コロナ禍で最初に企画した事業は、バーチャル旅行を体験できるイベント「ニュージーランドで過ごす夏のクリスマス」。現地（ニュージーランド）にいるガイド（講師）とオンラインで繋がり、美しいまち並みや観光名所など、現地で撮影した写真や動画の数々を用いて紹介した。参加者のうち約40名は、自宅のパソコンやスマホなどを使用して「バーチャル旅行」を体験。オンライン事業は初の試みだったので、機器を持たない人でも参加できるよう館内に会場を設けて、スクリーン投影を行った。

市が行ったアンケートでは、公民館の利用が比較的少ない10～50歳代は「自宅やインターネットを活用した学習」を望んでいるとの回答が多かったことから、新しい利用者層に向けた事業の実施方法としてオンラインを活用していきたいと考える。

イ. 公民館事業の周知方法

(ア) ホームページでの情報提供

従来のホームページには記事が文字のみで一覧に並んでおり、知りたい情報が見つげにくい状態となっていた。そこで、トップページにカラフルなタブを設置し、各ページへのアクセスがしやすいように変更した。

また、事業の周知方法としてホームページへの掲載を追加し、情報収集のためにホームページを閲覧した方に、常に新たな情報を提供できるようにした。チラシはポスター形式で作成し、人目を引くことに注力し、詳細はホームページに掲載することで、チラシ内の二次元バーコードからホームページの閲覧を促すことで、アクセス数を増やすことに努めた。その他にも、公民館の使用料・設備・定員等の情報を1ページにまとめ、写真を加えて紹介し、一目で分かるように工夫を行っている。

(イ) 公民館 Facebook を開設

「公民館への愛着心の創出」と「新規利用者の獲得」を目的として、2021年に公民館公式SNSとして初めて船橋市公民館Facebookを開設した。公民館の利用者や講座の参加者に、写真や動画で公民館の楽しさを常時PRすることで、リピーターを獲得するとともに、Facebookの利用者層である30代～50代に合わせた内容の講座を周知することで公民館の認知度アップを目標としている。

3 成果と課題（今後の展望）

(1) 成果と課題

東部公民館では、令和2年度以降、6講座でオンラインに対応し、参加者は100名を超えた。対面であれば講座の目的が達成できないもの以外はオンライン対応が出来るか検討を行っている。

オンライン参加者へのアンケートでは、“仕事上の都合により出席できない人や子育てにより自宅から出られない人など、”オンラインだから参加できる”方が多くいることが分かった。今後もオンラインと対面を組み合わせるなど、新たな学習スタイルに対応していきたい。

PR面では、公民館事業の広報活動は紙媒体がメインとなっていたが、若年層への広報活動としてインターネットやSNSを活用した広報活動も併せて行うことで、より広い年齢層に向けた情報発信を行っている。課題としては、ホームページのアクセス数は徐々に増加している一方、Facebookの登録者数に伸び悩んでいる。Facebookのメイン利用者層である、30～50代に向けた投稿をすることで、新たな利用者の獲得に繋げたい。

(2) 今後の展望

現在、公民館事業の一部は、Facebook・ホームページの周知から参加申込、その後のアンケート回答まで、すべてオンライン上で手続きを完結できる体制をとっている。今後も、公民館を普段利用していない世代の利用促進や、より多くの方が公民館事業に参加できるようインターネットを活用していきたい。

時代とともに変化する地域の課題や実情に合わせて、地域の方々にとっての公民館の価値や有り方を模索し、時代に取り残されぬよう常に新たな公民館を目指していきたい。

新たな選択肢が、「これからの情報発信」だ 今、なぜ新たな選択肢が必要か

長野県塩尻市塩尻東公民館
前主事 林 徹

1 はじめに

(1) 市町村の概要

ア. 位置

塩尻市は松本盆地の南端、長野県のほぼ中央に位置します。隣接市町村は、東は岡谷市、西は朝日村、南は辰野町、北は松本市で、木曾方面は木祖村です。地形は扇状地形で、信濃川水系の「奈良井川」と「田川」、天竜川水系の「小野川」が流れています。そして「塩尻峠」と「善知鳥峠」「鳥居峠」は、太平洋と日本海への分水嶺となっています。北アルプス、鉢盛連峰、東山・高ボッチ山、さらには中央アルプスの山並みを背景に田園風景が広がる、清浄な水と緑に囲まれた歴史ある市です。

イ. 交通

塩尻市は太平洋側と日本海側の交通が交差する交通の要衝で、鉄道はJR中央東線・西線及び篠ノ井線が通過します。主要幹線道路は、長野自動車道のほか、一般国道19号、20号及び153号が通過し、分岐点にもなっています。

ウ. 市域

東西17.7キロメートル・南北37.8キロメートル

エ. 面積

約290.18平方キロメートル

オ. 人口

65,795名（令和5年6月1日現在）

カ. 歴史・文化

塩尻市には史跡をはじめ、有形・無形文化財など貴重な遺産が数多く存在しています。交通の要衝としてかねてから栄えたまちには旧街道の中山道、三州街道、北国西街道が通り、街道沿いに栄えた「奈良井宿」「贅川宿」「本山宿」「洗馬宿」「塩尻宿」「郷原宿」は、今もその面影が残ります。特に中山道11宿の中で最も賑わいをみせた奈良井宿は、往時の景色をよく残していることから、漆工の町「木曾平沢」とともに国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。

近代歌人たちが集まった広丘原新田には、本棟作りの旧家を移築した短歌館や歌碑公園があります。歌碑公園には、近代短歌の潮流といわれる「太田水穂」、「島木赤彦」、「若山牧水」をはじめ、女流三歌人の「若山喜志子」、「四賀光子」、「潮みどり」の数々の優れた歌の歌碑が建立され、短歌館には、それらの歌人たちの遺品が展示してあります。また、毎年開催される「全国短歌フォーラム」は、全国から数多くの短歌が寄せられ、全国の歌人の心をときめかせています。

(2) 市町村（団体）の公民館（団体）の概況

塩尻市では、中央公民館と10地区公民館が配置され、それぞれの公民館が地域に密着し、社会教育を基盤とした「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を意識した公民館活動を推進しています。そして地区公民館のもとに、主に区の単位ごとに「分館」が設置されています。市内において65の分館があり、住民に最も身近な公民館として、住民の手によって主体的に運営されています。

2 事業の内容

(1) 事業のねらい

公民館には今の社会を築き上げた素晴らしい実績があります。その実績を後世へ引継ぐことは私達公民館関係者の使命だと思います。

しかし、今、大きな社会変化の波が押し寄せてきています。一例が新型コロナウイルスです。その波を乗り越えるには今までの公民館では限界があると考えます。

その波を乗り越えるには新たな選択肢を設け、多くの選択肢を提供することが必要ではないでしょうか。その結果、公民館の素晴らしい実績を後世へ引継ぐと共に大きな社会変化の波に対応できる公民館になると考えます。

(2) 事業の具体的内容例（期間、運営方法など）

選択肢の1つが、YouTubeを利用した講座用動画の配信です。公民館本来の姿であり、「集い、学び、繋がる」と大きくかけ離れたデメリットがありますが、「いつでも、どこでも、だれでも学べる」と学びに特化したメリットがあります。具体的には地区内の史跡、遺跡や地区活動等を紹介する8分程度の動画を作成しYouTubeへアップロードするものです。

3 成果と課題（今後の展望）

(1) 事業や実践に対する成果と課題

令和2年度から始めたYouTubeでの講座用動画配信は377本の動画を配信し240,000回（令和5年5月末日現在）の視聴をいただいております。これは、今の社会に必要な選択肢の一つだったと感じています。

また、新型コロナウイルス感染防止対策の令和3年9月3日～9月12日の長野県「命と暮らしを救う集中対策期間」では2,400回の視聴があり、令和4年1月27日～2月20日の「まん延防止等重点措置期間」では21,000回の視聴がありました。この2つの期間は新型コロナウイルス感染防止のため対面での講座を開催することが出来なかった訳ですが、YouTubeを利用することで学びを止めることはありませんでした。

ほかには、地区内の地域づくり連絡協議会が主催しYouTubeで紹介した史跡を巡るウォーキングが2回実施されたり、地区活動で紹介した団体が講師として招かれたり、YouTubeが縁になって繋がりが生まれた事例がありました。また、YouTubeを見ながら故郷を懐かしんでいるロスアンゼルス在住の方がいることを知りました。このことは地域愛を育むことができていると感じております。

(2) 今後の展望など

携帯電話の通信速度が4Gから5Gへ高速化してきています。例えば、5Gでは2時間の映画が3秒でダウンロードできるとも言われています。デジタルには無限の可能性があると考えています。この高速通信インフラを活用し様々な可能性に挑戦して行きたいと思っております。

地域と連携した公民館活動を目指して

山梨県上野原市公民館連絡協議会
会長 岡部 公史

1 はじめに

(1) 上野原市の概要

上野原市は山梨県の最も東に位置し、首都東京に近い中で、森林が土地の約80%を占める緑豊かな地域です。市の中心を流れる桂川流域がなす河岸段丘が居住地の基盤となり、市内を東西に国道20号や中央自動車道、JR中央本線が横断し、また首都圏のベッドタウンとして、コモアしおつニュータウンがあります。

平成17年に秋山村と上野原町が合併して上野原市となりましたが、人口減少により令和5年5月時点での人口は約22,000人、人口の36.7%が65才以上（令和2年度国勢調査）と少子高齢化が進んでいます。市内には4つの小学校と3つの中学校、2つの高等学校、1つの大学が設置されています。



上野原市キャラクター たまじまる

(2) 上野原市公民館の概況

上野原市には中央公民館と10地区の地区公民館があります。10地区の公民館は統廃合前の小学校区をもとに設置されています。建物としての公民館は上野原市文化ホールが中央公民館を兼ねており、地区公民館は2館のほかは市営運動施設の体育館を公民館として設定しています。中央公民館では市内全域の住民を対象に社会教育課職員が公民館事業を企画・運営しています。各地区公民館では有償ボランティアの公民館主宰・庶務が中心となり、各種団体との連携により、公民館活動を推進しています。

(3) 公民館が抱える課題

ア. 少子高齢化による影響

公民館行事への参加者の減少、特に働き盛り世代の参加者が減少しています。また小中学校の統合により学校区が拡大した結果、従前の各種団体等との調整が難しくなっているように感じます。さらに、公民館役職員の高齢化をはじめ、任期2年で交代するなど、経験を有する役職員が減少していることが課題となっています。

イ. 新型コロナウイルス感染症による影響

新型コロナウイルス感染症の影響により、約3年間公民館活動の自粛、縮小が余儀なくされました。この期間、活動ができなかったことにより、住民の公民館活動への参加意欲の低下、公民館関係職員の経験不足等が問題となっています。

ウ. 公民館活動の多様化

公民館活動に興味を持ってもらうため、多種多様な活動が求められています。講師の確保や、参加者の確保等、学校・企業・NPO法人・地区各種団体等との連携がますます重要になっています。

2 公民館活動の内容

(1) 活動のねらい

公民館活動を通じて人と人をつなげるにはどうしたらよいのか、人間関係が希薄になってきている中、地域の人々の交流、昔からの伝統的な文化を子どもたちに伝えていきたいという思いから、各公民館事業を実施しています。地域で子どもたちを見守ること、人生100年時代と言われる昨今、いつまでも生きがいを持ちながら生活をおくるため公民館ができることを考えています。

(2) 活動の具体的内容と関係団体等との連携

ア. 中央公民館と大学との連携・協働について

平成14年から市内小学3年生～6年生を対象に、『上野原自然探検隊』の活動を実施しています。市内の野外をフィールドとし、次世代を担う子供たちの環境に対する意識を高め、自然に対する感性を培い、豊かな心を育てることを目的としています。市内在住の教員と帝京科学大学の学生サポーターが主体となって活動を運営しています。

イ. 地区公民館と各種団体との連携・協働について

令和5年1月、島田公民館では、新型コロナウイルス感染症予防対策を施しながら屋外で『どんど焼』を実施しました。開催にあたっては、実行委員会を立ち上げ、地区区長会・社会福祉協議会・民生児童委員・観光協会・PTA・消防団・いきいきサロンの他、地区自主団体等との連携により開催しました。昔からの小正月行事を復活させ、子どもから大人まで三世代交流の場として多くの参加者を得て活況でした。

ウ. 山梨県生涯学習推進センターとの連携について

令和3年度から山梨県生涯学習推進センターが開催している講座をオンラインで受講できるようにしました。市内にいながら講座の受講が可能となり、またオンラインで質疑応答ができるため、その場で疑問を解消できるなどのメリットを生かした取り組みでした。

エ. 企業との連携・協働について

令和3年度に明治安田生命相互保険会社と、健康増進、スポーツ振興、子どもの健全育成、安心安全なまちづくり、産業振興・観光振興に関するものの他、地域活性化および市民サービスの向上に関するものについて協働・連携して取り組むことを目的に協定を締結しました。令和4年度から公民館の取り組みとして、認知症予防講座や、防災講座、女性のための栄養講座などを実施しました。今まで公民館活動に関心なかった参加者の拡大をはかることができました。

3 成果と課題（今後の展望）

新型コロナウイルス感染症の拡大の中で、約3年間における公民館活動の空洞化は間違いありません。しかしながら、中央公民館での『上野原自然探検隊』は規模を縮小したものの継続的に実施したことや、島田公民館での小正月行事『どんど焼』を復活させたことは、今後の公民館活動の原動力になるのではないのでしょうか。

これからの公民館活動は、多様な主体との連携・協働、さらにはオンラインによる開催など視点を変えて取り組むことが活性化へのカギとなります。また、小・中学校で推進しているコミュニティスクール（学校運営協議会）についても深く関連性がありますので、公民館関係者は関心をもって経験・知見を活かし、コーディネイト役として参画していく必要があると感じています。

「公民館でつながる」6つの取組み

長野県佐久市中央公民館
主事 箕輪 美里 ほか

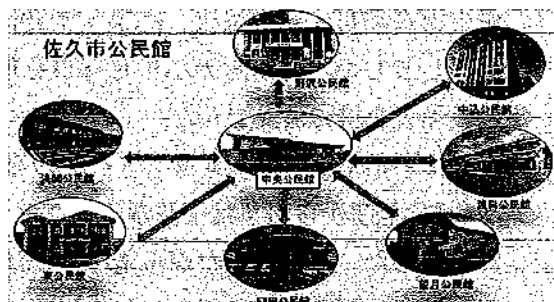
1 はじめに

(1) 市町村の概要

長野県の東信地域にある佐久市は人口約9万8千人で、浅間山と蓼科山・八ヶ岳に挟まれた佐久平を中心に発展している市である。冷涼で日照時間が長く、地震災害等が比較的少ないとされている。北陸新幹線の佐久平駅があり、都心から約1時間15分の立地から、近年では新幹線通勤をする人もいなど、転入者数が転出者数を上回っている。

(2) 市町村の公民館の概況

佐久市には旧市町村時代の地区単位を中心に8つの市公民館がある（中央・浅間・野沢・中込・東・白田・浅科・望月）。自治公民館としては235の地域公民館があり、大小様々となっている。それぞれの市公民館は市役所支所に併設されたものや、病院施設と併設、社会福祉施設と併設、ホール系施設など特色があり、それぞれの地区に寄り添った講座等を多数実施している。



(3) 地域・公民館が抱える課題

地域全体を通して少子高齢化やコロナ禍を経て、滞ってしまった公民館活動の再開に向けて戸惑っている姿がある。また、公民館講座においては男性や若い世代の参加が少なく、その世代の参加増を図ることが課題となっている。

2 事業の内容

佐久市公民館では「公民館でつながる」を軸に数多くの講座等を実施している。その中でも「〇〇と（が）つながる」6つの事例について紹介をしたい。

①市民がつながる【事例1／中央公民館の事例】

幼児から高齢者まで幅広い市民が訪れる公民館、参加者同士の交流を大事にした講座（創錬の森 市民大学・大学院、乳幼児学級）

②学校とつながる【事例2／白田公民館の事例】

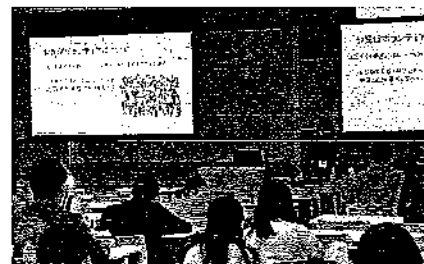
世代間交流事業として実施している白田小中学校体験学習における子どもたちと公民館学習グループとの交流体験活動

③大学とつながる【事例3／佐久大学との交流】

市内にある大学機関との講座、館長・主事が講師を勤める講義、学習グループとの交流、ボランティア等を通じた交流活動



事例2/ 白田小学校体験学習



事例3/ 佐久大学での講義

④公民館周辺施設等とつながる【事例4／中込公民館の事例】

公民館施設に併設する病院と連携した講座や、地域の経済的活性化を願う視点からのJR東日本小海線統括センターや地元商店街と連携した講座の実践

⑤地域とつながる【事例5／望月公民館の事例】

もちづき子ども祭りの実施における、地域に存在する組織・団体や地元で活躍しているミュージシャンの方などとの連携

⑥企業とつながる【事例6／野沢公民館の事例】

企業との共催講座実施に向けた検討や苦悩、事前の綿密な打ち合わせと情報共有の重要性



事例4／JR東日本小海線統括センター
連携事業（佐久大学生参加）



事例5/ もちづき子ども祭り

3 成果と課題（今後の展望）

(1) 事業や実践に対する成果と課題

事例1では、参加者同士がつながり、学びを広げる活動となるように意図的なしかけや働きかけができています。

事例2・3では、教育機関とつながって交流の場をもつことによって、「また公民館へ行きたい」などの感想が出るなど、若い世代に公民館を知ってもらう良い機会となっています。

事例4・5は各地区の特性や課題を把握するところから新しく生まれた実践である。現状把握をし、身近なところに連携していく組織や団体などを見つけていくところから、新しい実践や地域の課題解決につながっていくと考える。

また、事例6のように新しく連携を図る際には立場のちがいなどから苦悩が生まれることがある。事前に綿密かつ具体的に打ち合わせをすることや、公民館長・職員同士で情報を共有することによって公民館としての方向性がずれないように注意をすることが大事だと学んだ。結果的に新しい市民の学びの場とすることができたため、幅広い学習機会を提供する手段の1つとして活用していきたい。

学びを、その場限りの楽しみにとどまらず、仲間づくりや地域課題の解決につながる取組みに発展していけるよう、これからも公民館の「つなぐ」機能を大切にしていきたい。

(2) 今後の展望

より一層人・もの・ことをつなげる・つながる公民館活動を展開していきたいと考えている。一例として、公民館講座において大学生のボランティアを受け入れる講座の実施が始まっている。

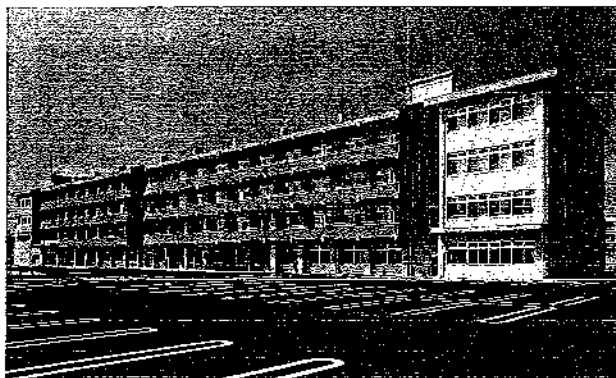
また、コロナ禍明けの公民館活動として市公民館が率先して活動をしていく姿を自治公民館（地域公民館）へ広げていきたいと考えている。



大学生ボランティアの活動の様子
浅科公民館「ママの料理教室」（託児）

地域を“つなぐ”公民館を目指して～栃木市公民館の取組～

栃木県栃木市栃木公民館
主査 永田 陽一



栃木公民館 (キョクトウとちぎ蔵の街楽習館)



麦秋の風景 (栃木市大平町)

1 はじめに

(1) 栃木市の概要

本市は栃木県の南部に位置する人口約15万人の市で、東京から鉄道でも高速道路でも約1時間の距離にあります。ラムサール条約登録湿地である渡良瀬遊水地などの自然資源に加え、蔵の街並みや嘉右衛門町重要伝統的建造物群保存地区などの歴史・文化資源、とちぎ秋まつりをはじめとする特色ある観光資源など、多岐にわたる重要な資源を有しています。また、二条大麦やいちご、トマトをはじめとする農産物やその加工品の生産が盛んです。

(2) 栃木市の公民館の概況

栃木市には地区館を含め19の公民館があります。各公民館では、地域住民を対象とした高齢者学級や少年少女学級等の公民館講座の開設、女性会や子ども会育成会等の地域団体との連携による事業の実施など、各地域における社会教育事業の推進に取り組んでいます。令和3年度からは、公民館が首長部局の地域づくり関係部署と一体の組織となったことから、これまで以上に公民館の持つ“社会教育力”を活かした地域づくりへの参画が求められています。

(3) 地域が抱える課題

人口減少や防災・減災、健康・医療等多くの課題がありますが、公民館が積極的に取り組む今後の地域づくりの課題として次の2つに整理しています。

ア. 地域ぐるみで子どもたちの生きる力を育むため、「とちぎ未来アシストネット」を通じて、学校・家庭・地域の連携による“人づくり・地域づくり”の実現に向けた取組を推進していく必要があります。

イ. 市民と行政の協働による地域づくりが求められており、「市民協働のまちづくり」の推進を支援する必要があります。

2 「公民館協働サポート事業」の内容

(1) 事業のねらい

「市民協働のまちづくり」を推進するために令和3年度から始めた事業です。地域で活動するNPO

や市民活動団体等が実施する事業に対し、求めに応じて公民館が助言・支援を行うことで、多様な主体同士の連携を促進し地域の活性化を図るとともに、社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりの推進により、「市民協働のまちづくり」の実現を目指すものです。

(2) 事業の内容

市民等が主体となって実施する事業の相談に対して助言を行うとともに、公益性があり、協働することが市民等と公民館の双方、及び地域にとって有益である事業を協働事業として実施します（営利を目的とした事業は除く）。

(3) 実際に実施した事業の紹介

ア. ミニとちぎ（NPO法人「栃木おやこ劇場」との協働）

小中学生向けの職業体験イベントを協働事業として実施しました。事前に打ち合わせを重ね、公民館は当日の準備・片付けや受付、報道機関への広報を行いました。参加者・ボランティアスタッフ合わせて約200名が参加するイベントとなりました。

イ. 蔵フト麦酒ウォーク（蔵フト麦酒ウォーク実行委員会と栃木市役所蔵の街課との協働）

嘉右衛門町伝建地区を会場として、県内クラフトビールとまち歩きをテーマにしたイベントを開催しました。両日合わせて約3,000人の方にご来場いただき、国の重要伝統的建造物群保存地区の選定10周年を迎えた嘉右衛門町の魅力を広くPRすることができました。事前に打ち合わせを重ね、公民館は当日の準備・片付けや受付、報道機関への広報に加え、交通規制や駐車場確保に関する警察や学校等との調整を行いました。



蔵フト麦酒ウォーク

3 成果と課題（今後の展望）

(1) 事業に対する成果と課題

ア. 成果

これまでは公民館が事務局になっている団体との協働に限られていましたが、本事業を通じてより多くの地域の団体・地域の方と関わるできるようになりました。公民館を拠点に様々な団体や地域の方が交流することで、団体間の横のつながりが生まれ、新たな事業展開も期待されます。協働事業の実施に際しては、スタッフの確保や当日の運営の面から、公民館単独では実施できない事業を実施することができ、互いのネットワークや経験を活かした広報・事業企画など、より効果的な事業を実施することができました。

イ. 課題

予算や条例・規則等の整備がない中での事業実施となるため、施設利用時の減免や負担金の交付等、お金が関係する部分の協力はできません。協働相手側の選定及び協働事業の企画運営については、地域にとってのメリットをできるだけ生み出せるよう意識して取り組んでいく必要があると感じています。また、どちらか一方の負担が大きくなるよう、バランスを考慮したコーディネートが求められます。

(2) 今後の展望

各地域には、地域予算を使って地域課題の解決を目指す「地域会議」や、実際に地域づくりの活動を行う市の「認定まちづくり実働組織」がありますので、これらの組織との連携・協働を進めていく必要があります。また、市の他部局や学校、民間企業等、多様な主体との協働を推進し、個別ではなく全体での地域づくりを考えていくことで、“オールウィン”となるような事業展開に努めたいと思います。

「公民館が多様な主体との連携・ 協働の中核となる地域人材とつながるヒント」

東京都ジョージ防災研究所代表・ぼくろーむ代表
西東京市立明保中学校地域学校協働活動推進員 小野 修平

1 はじめに

平成28年、大学卒業とほぼ同時に「ジョージ防災研究所」を起業した。防災アドバイザーとして、公民館をはじめとした講座や研修で講師を務めるほか、学校や幼稚園・保育園、社会福祉施設や企業、行政、自治会やマンション管理組合などの防災コンサルティングとして災害対策支援を行っている。また、熊本地震では女性専用避難所の運営支援や被災障害者の生活再建支援を実施し、平成30年7月豪雨では愛媛県西予市において、行政や社会福祉協議会の後方支援をしながら、災害ボランティアセンターや地域支え合いセンターを通じた住民の生活再建支援に携わった。さらに、プライベートでは、不登校などで悩む子どもたちの居場所「ぼくろーむ」や出身中学校における地域学校協働活動推進員などの活動を通して、仕事と地域活動の両面からまちづくりに関わっている。

それらの活動を通して、多様な主体との連携や協働をコーディネートしているが、本事例発表では、公民館をはじめとした社会教育施設が学習や活動を支援する講師や市民とつながり、協働していくかを考える際のヒントとなる話題を提供したい。

2 講座における講師としての視点から

(1) 講師も学習支援者の一人

公民館講座での学習は多様ではあるが、特に防災講座は学びから具体的な実践へとつながってこそ、十分な学習成果が出たと言えるだろう。しかし、数回の講座では十分な手応えを感じることは難しく、いかに講座をきっかけとして、継続的な学びを生み出すことができるかが重要である。講師は単に一方的な話をしたり、グループワークなどの進行をしたりするだけではなく、講座参加者の学びを深め、つながりを作り、次の学びへとつなげる支援をすることが求められているのではないだろうか。講師と公民館職員は学習支援者としてパートナー的存在であり、二人三脚で取り組んでいくことが大切である。

(2) 質の高い講師とつながる

職員は講師に打診をして日程調整を行い、広報をして申込みを受け付け、資料準備や講座当日の進行をするといった基本的な業務はもちろんのこと、いかに学習者主体の学びを支援しながら、継続的な学習へとつなげていくことができるかが腕の見せどころであるだろう。とはいえ、社会教育や公民館ならではの学習スタイルを理解している講師を見つけるのは簡単ではない。講師の視点から言えば、最初から十分な力を持ち合わせているわけではないだろうし、常に講師自身も学び続けていくという視点が必要であると考えている。特に、講師は講座参加者や職員との対話から多くの学びを得るため、ぜひ講座の内容だけでなく、中長期的な視点も含めてどのような講座にしたいかというビジョンの共有を大切にしてもらいたい。

(3) 三者協働での学び

職員と講師は学習支援者としてのパートナーであるが、そこに三番目の存在が加わることで、さらに学習が深まる。西東京市の公民館では、講座参加者有志が講座終了後の振り返りの会や準備会に関わり続け、その取組が7年以上も続き、今となっては「BOSAIカフェ」という取組を開くことにもつながった。特に講座前後の振り返りの会や準備会に講師も携わり続けることで、それ自体が深い学習へとつながることになる。また、中学生を講座企画ボランティアとして募集し、小学生向け防災講座を実施したことで、中学生自身が地域人材の一員として著しい成長を遂げている。

3 地域人材としての視点から

(1) 講座からのサークル化ではない選択肢

公民館における学習や活動の発展と言えば、講座からのサークル化が王道だろう。しかし、さらに地域課題が多様で複雑化していくこれからの時代において、その課題を取り上げた講座を開き、サークル化を促してみたり、すでに活動している団体が公民館を拠点に更なる活動を展開していく支援をしたりといった枠に留まらないサポートが必要であると感じている。

事例発表者が立ち上げた不登校などで悩む子どもたちの居場所「ぼくるーむ」は、講座を経ることなく、公民館とともに有志へ声掛けを行い、そのメンバーで準備会を繰り返していく中でサークル化した活動であり、きっかけは公民館運営審議会の会長を務めていた中での職員とのコミュニケーションであった。

(2) 公民館を飛び出す

令和3年7月から出身中学校でコミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進が始まり、コーディネーターを務めている。また、市内を4圏域に分け、関連する個人や団体、企業や関係機関等がつながり、まちづくりを推進する「地域協力ネットワーク」にも関わっているが、いずれの活動も公民館職員が詳しく知らないことが多い。公民館外で行われている活動や施策に対して、職員個人の情報に留めず、公民館全体で共有するところから始め、様々な場に顔を出していくことが必要ではないだろうか。とはいえ、日々の業務に追われていると、なかなか地域や他部署の情報が入ってこないのが実情であり、頻繁に公民館の事務室に立ち寄っては、職員と情報交換を欠かさないように心掛けている。公民館には様々な市民が来館し、特に地域で広く活動している市民も出入りするので、そのような市民が公民館外でやっていることを聞いてみたり、地域の情報を教えてもらったりすると良いのではないかな。

4 さいごに

共通して重要なのは、「顔の見えるつながり」と「コミュニケーション」であり、講座やそれ以外の学習支援も含めて、職員一人ひとりの専門力や対応力が向上するのはもちろん、職場全体が多様な主体との連携・協働を推進する風土が醸成されることを切に願う。

令和元年の長野市長沼地区における被災後の社会教育活動について

長野市教育委員会（長沼交流センター）
社会教育主事 平野 誠
長沼担当職員 清水 恵子
長沼地区住民自治協議会職員 宮岡 晃子

1 はじめに

(1) 市町村の概要

長野市は、長野県の北部に位置する中核市で、令和5年4月1日現在の人口は366,591人です。

(2) 長野市の公民館の概況

長野市には、29か所の公民館・交流センターがあります。

このうち、10箇所については、住民自治協議会による指定管理者制度により運営されています。

また、長野市では、地域づくりに関する活動、社会福祉に関する活動、生涯にわたる学習活動その他地域における多様な活動の場を提供するとともに、住民の教養及び地域文化の向上に資する事業を行うことにより、住民の交流及び主体的な活動を促進し、もって地域の活性化及び住民の福祉の増進に資することを目的に、「公民館」を「交流センター」に移行する試みを行っております。

現在、被災により休止中の長沼交流センターのほか、篠ノ井、柳原、小田切、中条の5箇所が交流センターに移行しています。

2 長沼地区の社会教育

(1) 事業のねらい

長野市長沼地区は、令和元年東日本台風災害の甚大な被害を受けました。

社会教育活動の拠点である、長沼交流センターは被災により失われ、地域の皆さんは限られた環境の中で社会教育活動の継続を余儀なくされています。

第7分科会では、災害後の長野市の取組を発表し、被災地における社会教育活動について考える機会とします。

(2) 事業の具体的内容

交流センターの復旧にしばらく時間がかかること、人口は回復途上であること、住民自治協議会をはじめとした地元団体と十分に連携する必要があること、現在の施設や環境を創意・工夫しながら活用する必要があることなどから、社会教育環境の復興には、明確な目標を掲げる必要と考え、以下の方針を定め、長沼地区の社会教育活動に取り組んできました。

「コミュニティの再生につながる学びの展開を図りながら、心のケアにつながる講座を実施していきます。」

5つの基本的な事業

- ア.子どもたちの健全育成と保護者への支援につながる講座の展開
- イ.高齢者の健康と生きがいづくりにつながる講座の展開
- ウ.成人祝賀式
- エ.被災により散逸した資料等の収集・整理・展示
- オ.市と住民自治協議会の連携事業の展開



夏休み親子で長沼城跡発掘体験

(3) 住民自治協議会との連携

限られた環境の中で、本当に地域住民から必要とされる社会教育活動を提供していくため、「5つの基本的な事業」のオのとおり、市と住民自治協議会と綿密に連携し、講座の企画や連携事業を展開しています。

3 成果と課題

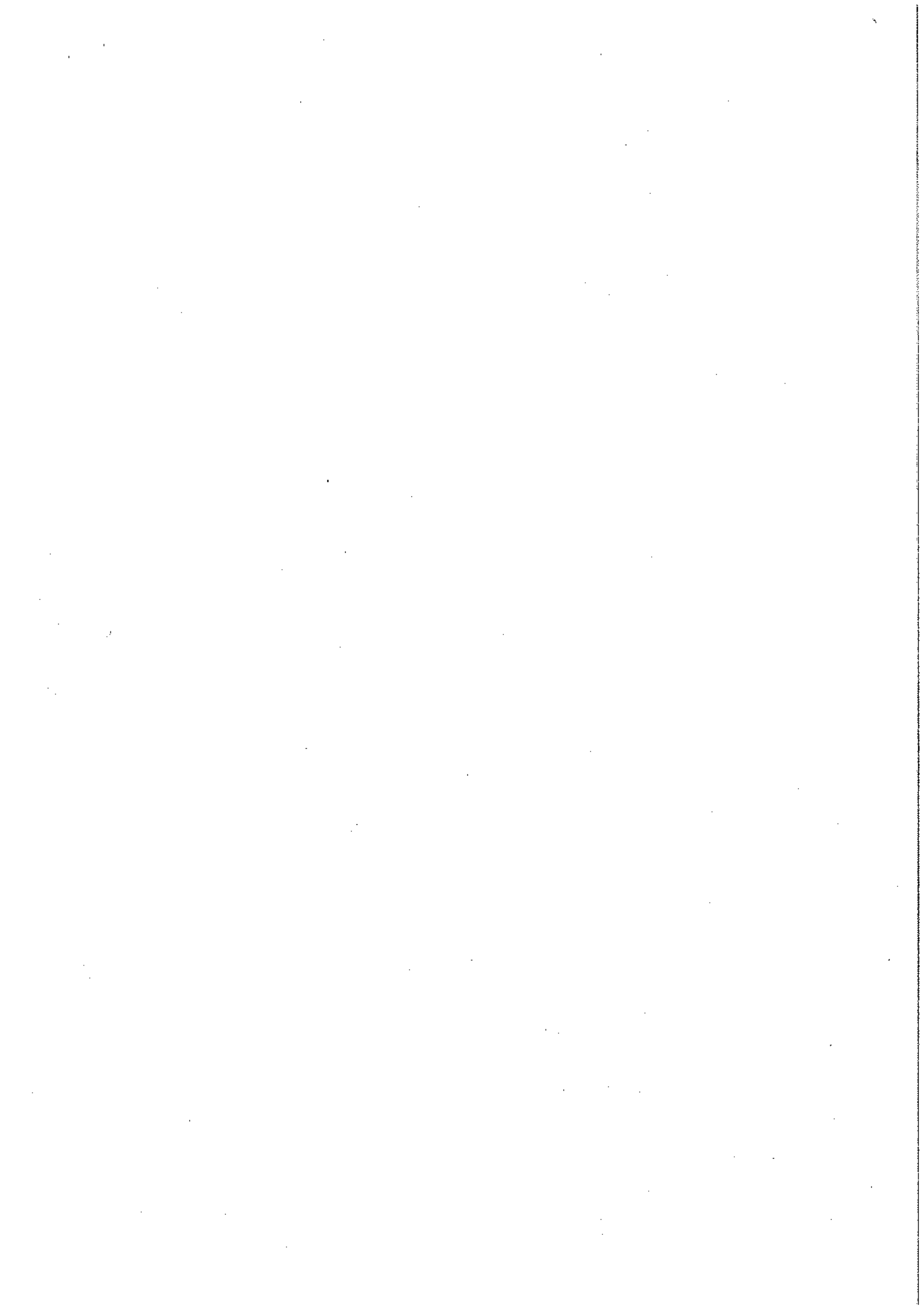
(1) 5つの基本的な事業に対する成果と課題

- ア. 未就園児を対象とした「すこやか子育て教室」(毎月1回)は、令和2年の5月に再開し現在に至るまで途切れることなく開催し、子育て支援に貢献しています。また、小学生対象のものづくり体験も回数は少ないものの継続して実施できています。
- イ. 高齢者対象の体操講座(毎月1回)は令和2年の5月に開催を始め、現在に至るまで途切れることなく開催できています。各地区の「はつらつ体操クラブ」が再開してきていることから、今後どのように実施していくかが課題です。
- ウ. 令和元年度の成人祝賀式は隣接地区との合同開催、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期になりましたが、令和3年度に長沼地区単独で2年分を無事実施することができました。令和4年度も引き続き、仮設庁舎の交流スペースを会場に実施しました。毎年、新成人の参加率が高いのが特徴です。
- エ. 過去に制作した冊子、パンフレット、クリアファイル等、電子データとして出版社に残っているのが確認できています。また、交流センターの事業や伝統行事を撮影した多くのDVDを所有している地元の方との理解も得られています。今後どのように収集・整理していくか検討していく必要があります。
- オ. 令和4年度は長沼城跡の発掘調査が本格化したことから、住民自治協議会の要望に応え、各機関、地元団体と連携して「発掘」をテーマにした講座を展開しました。

長沼地区だけでなく、長野市内外の多くの方々に長沼の魅力に触れていただくことができました。

(2) 今後の展望

引き続き住民自治協議会や関係機関、団体と密接に連携して、途切れることなく事業を実施していくことが重要です。長沼地区の魅力を内外に発信していく事業も大切にしていきます。また、被災前は多くのサークル活動が行われていましたが途切れている活動もあり、どう支援していくか検討課題としたいです。



関東甲信越静公民館研究大会の記録・予定

回	期日	開催地	分科会数
第1回	昭和34年11月19日～11月21日	群馬県前橋市	5分科会
第2回	昭和35年9月29日～9月30日	新潟県湯沢町	3分科会
第3回	昭和37年8月3日～8月4日	神奈川県横浜市	3分科会と パネルディスカッション
第4回	昭和38年9月5日～9月6日	栃木県藤原町	8分科会
第5回	昭和39年9月3日～9月4日	千葉県船橋市	5分科会
第6回	昭和40年9月3日～9月4日	山梨県石和町	5分科会
第7回	昭和41年8月26日～8月27日	静岡県静岡市	3分科会
第8回	昭和42年8月3日～8月4日	長野県山ノ内町	3分科会 29分野
第9回	昭和43年6月6日～6月7日	新潟県新潟市	8分科会
第10回	昭和44年9月18日～9月19日	埼玉県秩父市	5分科会
第11回	昭和45年10月7日～10月8日	茨城県水戸市	6分科会
第12回	昭和46年10月5日～10月7日	東京都青山会館	5分科会
第13回	昭和47年9月27日～9月29日	群馬県伊香保町	5分科会
第14回	昭和48年7月25日～7月27日	神奈川県小田原市・箱根町	6分科会
第15回	昭和49年8月19日～8月21日	栃木県藤原町	5分科会
第16回	昭和50年9月17日～9月19日	千葉県木更津市	7分科会
第17回	昭和51年9月7日～9月8日	山梨県石和町	5分科会
第18回	昭和52年9月1日～9月2日	静岡県伊東市	9分科会
第19回	昭和53年9月5日～9月6日	茨城県大洗市	8分科会
第20回	昭和54年9月5日～9月6日	長野県長野市	13分科会
第21回	昭和55年8月29日～8月30日	新潟県新発田市	10分科会
第22回	昭和56年8月27日～8月28日	埼玉県嵐山町	17分科会
第23回	昭和57年9月3日～9月4日	東京都国立オリンピック記念青少年総合センター	19分科会
第24回	昭和58年9月2日～9月3日	神奈川県藤沢市	17分科会
第25回	昭和59年9月7日～9月8日	群馬県前橋市	18分科会
第26回	昭和60年9月5日～9月6日	栃木県宇都宮市	14分科会
第27回	昭和61年9月4日～9月5日	千葉県鴨川市	18分科会
第28回	昭和62年9月3日～9月4日	山梨県石和町	17分科会
第29回	昭和63年9月7日～9月8日	静岡県浜松市	16分科会
第30回	平成元年9月6日～9月7日	茨城県水戸市	15分科会
第31回	平成2年9月11日～9月12日	長野県上田市	21分科会
第32回	平成3年9月5日～9月6日	新潟県湯沢町	17分科会
第33回	平成4年9月3日～9月4日	埼玉県秩父市	18分科会
第34回	平成5年9月2日～9月3日	東京都国立市	15分科会
第35回	平成6年8月25日～8月26日	神奈川県厚木市	18分科会
第36回	平成7年10月19日～10月20日	群馬県前橋市	12分科会
第37回	平成8年8月29日～8月30日	栃木県藤原町	16分科会
第38回	平成9年8月28日～8月29日	千葉県木更津市	15分科会

回	期 日	開催地	分科会数
第 39 回	平成10年 8 月27日～ 8 月28日	山梨県富士河口湖町	16 分科会
第 40 回	平成11年 9 月 2 日～ 9 月 3 日	静岡県静岡市	15 分科会
第 41 回	平成12年 8 月24日～ 8 月25日	茨城県水戸市	15 分科会
第 42 回	平成13年10月18日～10月19日	長野県長野市	13 分科会
第 43 回	平成14年 8 月27日～ 8 月28日	新潟県富浦町	15 分科会
第 44 回	平成15年 8 月28日～ 8 月29日	埼玉県さいたま市	15 分科会
第 45 回	平成16年 8 月26日～ 8 月27日	東京都昭島市	15 分科会
第 46 回	平成17年 8 月25日～ 8 月26日	神奈川県横須賀市	14 分科会
第 47 回	平成18年 8 月24日～ 8 月25日	群馬県前橋市	14 分科会
第 48 回	平成19年10月11日～10月12日	栃木県宇都宮市	10 分科会
第 49 回	平成20年 8 月21日～ 8 月22日	千葉県千葉市	15 分科会
第 50 回	平成21年 8 月27日～ 8 月28日	山梨県富士河口湖町	13 分科会
第 51 回	平成22年 8 月19日～ 8 月20日	静岡県静岡市	14 分科会
第 52 回	平成23年11月18日	茨城県つくば市	シンポジウム
第 53 回	平成24年 9 月27日～ 9 月28日	長野県松本市	15 分科会
第 54 回	平成25年 8 月29日～ 8 月30日	新潟県南魚沼市、湯沢町	14 分科会
第 55 回	平成26年10月16日～10月17日	埼玉県熊谷市、行田市	5 分科会
第 56 回	平成27年11月14日	東京都小平市	シンポジウム
第 57 回	平成28年 8 月25日～ 8 月26日	神奈川県相模原市	9 分科会
第 58 回	平成29年 8 月24日～ 8 月25日	群馬県前橋市	10 分科会
	平成30年 11月1日～ 2 日	首都圏大会	シンポジウム等
第 59 回	令和元年 8 月22日～ 8 月23日	栃木県宇都宮市	9 分科会
第 60 回	令和 2 年 (代替開催)	千葉県船橋市 (計画時)	14 分科会
第 61 回	令和 3 年 (代替開催)	山梨県甲府市 (計画時)	3 分科会 9 分野
第 62 回	令和 4 年 (代替開催)	茨城県水戸市 (計画時)	5 分科会
第 63 回	令和 5 年 9 月28日～ 9 月29日	長野県長野市	7 分科会
第 64 回	令和 6 年	新潟県上越市	開催予定
	令和 7 年	首都圏大会	
第 65 回	令和 8 年	埼玉県	
第 66 回	令和 9 年	東京都	
第 67 回	令和10年	神奈川県	
第 68 回	令和11年	群馬県	
第 69 回	令和12年	栃木県	
第 70 回	令和13年	千葉県	
	令和14年	首都圏大会	
第 71 回	令和15年	山梨県	
第 72 回	令和16年	茨城県	